

# モンゴル事務所ニュースレター 2018年3月号

## トップニュース

### 「工学系高等教育支援事業」96名の学生に留学資格証明書を授与



留学資格証明書を受け取った学生たち

3月14日、円借款「工学系高等教育支援事業」を通じて日本に留学する学生や教員に対する留学資格証明書授与式が開催されました。日本語による理数科目の猛勉強の結果、日本の大学や高専の編入試験に合格した学生らは、本事業の留学生として、機械工学や土木、建築の分野で、日本の学位取得を目指して飛び立ちます。なお、本事業では、本邦大学教員等によるモンゴル科学技術大学の工学系カリキュラムの改善指導も行っています。

## 政治・経済動向

### 一般税法改正の動き

モンゴル政府は、2018年4月からの春国会で一般税法改正を含む税制改革を提案する方針です。改正の狙いは、課税ベースの拡大、納税者の法的責任強化、国際課税制度の競争力向上、税務行政の透明性確保などとされ、パブリックコメントには5,600件の意見が届くなど国民の関心を集めています。JICAは、国際課税制度整備、人材育成や税滞納処理にかかる技プロを実施中で、JICA 専門家が法案作成に際して幅広く助言を行っています。

## プロジェクトの動き

### 草の根技協「ドルノゴビ県の下水道運営能力向上プロジェクト」3年間の活動を終了



エンジニアへの技術指導の様子

ドルノゴビ県は、下水道施設が十分でなく、また、2015年に新設された下水処理場の運営ノウハウも不足している状況でした。こうした中、本PJは、下水道運営能力向上と地域の水環境の改善を目的として、3年間に亘り、技術指導や本邦研修、水環境教育セミナーなどの活動を実施し、2018年3月に活動が終了しました。最終現地活動では、ドルノゴビ県知事より、実施団体の静岡県に対して、深い謝意が示されました。

### ダルハンオール県で塩分摂取量を正確に測定するための方法を指導



24時間蓄尿方法を指導

3月14～15日、草の根技協「ダルハンオール県における生活習慣病に対する保健・医療改善事業」（実施団体: (福) 水戸済生会総合病院)において、予防疫学の専門家が、医師・看護師対象に塩分摂取量を正確に測定するための24時間蓄尿方法について講習会を行いました。モンゴルでは塩分の多い食事に起因する高血圧などが課題で、参加者は1日かけて自分の尿を採取し、測定を行う一連の方法を学びました。今後住民への適切な減塩指導などに活用していくことが期待されます。

### 「公正競争環境改善プロジェクト」で本邦研修を実施



研修終了後の評価会の様子

2月25日～3月2日、技プロ「公正競争環境改善PJ」で、日本の公正取引委員会の協力を得て、日本の独占禁止法の運用、市場調査手法や活用に関する本邦研修を実施し、公正競争・消費者保護庁の検査官等計15名が参加しました。参加者からは、「市場調査の手法などを良く理解できた。モンゴルの実状に合わせて、どのように活用できるか検討したい」など、本研修が多くの示唆を与える機会となりました。

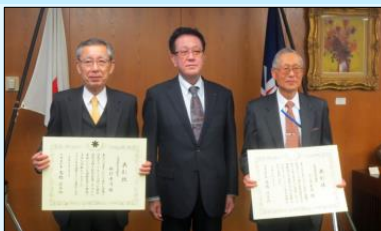
## 住宅政策セミナー開催



プレゼンテーションを行う長山専門家

3月22日、技プロ「UB市マスタープラン計画・実施能力改善PJ」の活動の一環で、住宅政策セミナーが開催されました。当日は、建設・都市開発省、UB市、銀行関係者などが参加し、低所得者向け住宅の供給手法や住宅金融のあり方などについて包括的な議論が交わされました。今後、住宅政策の方針を検討する上で非常に参考になった、との声が聞かれるなど、有意義な内容となりました。

## 「獣医・畜産分野人材育成能力強化プロジェクト」の梅村専門家、北海道社会貢献賞を受賞



梅村専門家（左）と辻北海道副知事（中央）

3月2日、本技プロの梅村専門家（北海道大学名誉教授）に対して、モンゴルの獣医分野の技術向上と人材育成への多大な貢献が評価され、「平成29年度北海道社会貢献賞（国際協力功労者）」が授与されました。同専門家は、2014年のPJ開始時から携わり、モンゴル生命科学大学獣医学部教員や現地獣医師などの人材育成に取り組み、同大学の名誉教授の称号も授与される等、日モ双方でその功績が称えられています。

## その他の事業の動き等

- 3月19日：玉井長期専門家（国家温室効果ガスインベントリの継続的な改善サイクル構築にかかる能力向上PJ）着任

## ボランティア事業の動き

### ボランティア活動紹介（リハビリテーションセミナーの伝達講習）



伝達講習の様子

エルネト市の川端JV（H27-4／看護師）が、2～3月にリハビリテーションの伝達講習を複数回実施しました。この講習は、2017年に2回開催したリハビリテーションセミナーの参加者が、『学んで終わり』ではなく、自ら実際に人に教えることで、知識を定着させることが目的です。当日は、セミナーで学んだ知識・技術が昇華できていない部分もありましたが、他者へ教えていくことで少しずつ洗練されていくことと思います。



## 研修・帰国研修員同窓会

### 帰国研修員同窓会総会の開催



総会の集合写真

3月2日、2017年度帰国研修員同窓会総会が開催され、オユンバートル同窓会長やJICA関係者など53名が参加しました。総会では、2017年度の活動報告や2018年度の活動計画について紹介したほか、帰国後の研修成果普及への積極的な活動が評価された研修員3名（教育、食の安全、防災）に対してグッドプラクティス賞が授与されました。3名の活動内容は次号以降に紹介します！

**事務所ナショナルスタッフが日本語で執筆！**

### コラム ～モンゴルの文化・生活事情紹介～ 「若者の議論」

UBのレストランでは若者たちのグループをよく見かけますが、その場で、互いの目標や仕事、さらには社会や経済問題などを熱く議論することがよくあります。私が最近聞いた興味深い話は若者（人材）育成です。

「モンゴルでは為替や資源価格などお金に関わる話はよくするが若者育成の話題は少ない。将来の国を支えるのは若者で、だからこそ私達はしっかりとした倫理感と道義的責任を持たなければならない」と。自分はどうかと考える機会にもなりましたが、モンゴルの将来が明るく見えるように感じました。（オプナ所員）

発行：JICA モンゴル事務所

Bodi Tower 7th Floor, Sukhbaatar Square 3, Ulaanbaatar

Tel : +976-325939, 311329 / Fax : +976-310845 / E-mail : mg\_oso\_rep@jica.go.jp